

常照

佛教大学附属図書館報

2022

No.69



佛教大学附属図書館



男女平等への長い道

附属図書館長・社会学部教授 藤井 透

世界経済フォーラム(WEF)は、2022年7月13日に、世界の男女格差の状況をまとめた2022年版の「ジェンダーギャップ報告書」を発表した。日本は対象となる146か国中116位と、G7のなかでも最下位である。完全に男女平等の状態を「100%」として達成度を数値化している「ジェンダーギャップ指数」によれば、13年連続の1位であるアイスランドが90.8%であるのに対して、日本は65.0%だという。日本の男女格差のなかで、わたしは、同一労働における賃金の同等性が2021年の65.1%から64.2%に下がった点に注目した(『朝日新聞』2022年7月14日付け記事)。

イギリス産業革命期においても、男女の賃金格差は歴然として存在した。しかし、それが「問題」だと認識され始めたのは、やっと19世紀末になってからである。その後、第一次大戦中に、前線に赴いた男性労働者の穴を埋めるために女性労働者が多数、工場や事務所で雇用されることになった。イギリス政府は、男性に代わって働くようになった女性に対して、男性と同等の賃金を約束したのだが、その約束は反故にされたのである。

1918年9月に、ロイド・ジョージ首相は6人の委員を任命し、「産業における女性に関する戦時内閣委員会」を設置し、男女の賃金率の原則を調査するよう命じた。6人のなかで唯一の女性であったフェビアン社会主義者のビアトリス・ウェップは、5人の男性が賛成した多数派報告に異議を申し立て、独自の少数派報告を公表した。それが*The Wages of Men and Women: should they be equal?*(1919)である。ビアトリスは、「文明社会のなかの第一の要件は、天然資源に関する社会の知識と資源を支配することによって可能となる生活の最高の水準で、全成員を扶養することにある」(p.27)という原則のもと、男女の賃金格差がいかに不合理であるか、いかに資本家のご都合主義による結果であるかを痛烈に批判した。

ビアトリスの少数派報告は、雑誌『改造』の1920年5月号に掲載された、京都帝大の河田嗣郎の論文「男子の賃金と女子の賃金」のベースとなった。そして同誌の8月号には、山川菊栄による「性的差別待遇撤廃論(男女賃金問題の研究)」と題した抄訳が掲載され、日本にもいち早く紹介された。今から100年以上も前の話である。WEFの報告書は、世界全体が男女平等を達成するには、あと132年(東アジア・太平洋地域だけみると168年)かかることも指摘している。しかし、わたしにはそこまで待つていられる余裕はない。

常照 2022 No.69

佛教大学附属図書館報

男女平等への長い道

附属図書館長・社会学部教授 藤井 透

1

Interview

支援が必要な少年たちと現代社会を想う—大学図書館に支えられて—

社会学部現代社会学科教授 作田 誠一郎

2

情報の蒐集・考察・発信:目録についての回顧と展望

仏教学部仏教学科教授 細田 典明

6

白雲書庫本の謎を追う—図書館という「現場」から—

文学部日本文学科教授 土佐 朋子

10

図書館での認知症啓発の取り組み

社会福祉学部社会福祉学科准教授 新井 康友

14

クラウド型図書館システムがもたらした新しい資料管理

図書館専門職員 藤本 由佳子

18

紫野キャンパス図書館利用率推移(2019~2022年度)

22

佛教大学附属図書館の事業活動報告(2021~2022年度前半期)

24

佛教大学附属図書館の沿革と「成徳常照館」の由来

25

支援が必要な少年たち と現代社会を想う —大学図書館に支えられて—

社会学部現代社会学科教授 作田 誠一郎

2021年4月から研究推進機構長になられた社会学部の作田誠一郎教授に、研究者になられるまでのいきさつ、研究に取り組む思い、図書館にまつわるエピソードなどについて話を伺いました。

自分の経験から得られた専門領域と 現代社会への関心

私は少年非行論、教育社会学、犯罪社会学を中心に研究をおこなっています。今でこそ社会学部の教授として教壇に立っていますが、大学へ進学してそのまま研究職に進んだわけではありません。研究者にしては少し変わったキャリアを歩んできたので、大学の教員としてこの場に導かれたことには不思議な縁を感じています。

私が少年時代を過ごしたのは1980年代であり、「ツッパリ」や「不良」など少年非行が注目されていました。当時は、『犯罪白書』等のデータをみても戦後最も少年非行が増加した時期でした。暴走族が社会問題化し、全国で大規模な警察による補導や検挙が実施されました。時代の後

押しもあつたのか、私が中学生のころは夏休み明けに突然金髪にしてくるような同級生が少なからずいました。あまり目立つことがなかった同級生の変貌ぶりに驚かされることが多々ありました。そのような経験からなぜ少年が非行に走るのか、映画やマンガなどの非行文化として社会的に受容される状況とは何かなど、今になって思うと少年非行や社会的逸脱に興味を持ち始め、後に社会学を専攻するきっかけだったと思います。

職場で見つけた支援が必要な少年たちとの出会い

青少年と関わる仕事として高校教師を目指していましたが、高校卒業後に諸事情から生ま

くてはならないと思い、再び研究へ戻り、今に至ります。

流動化する社会のなかで青少年問題をめぐる研究へ

研究では、青少年問題のなかでもいじめなどの学校問題や非行少年問題について、史料調査やアンケート調査、インタビュー調査など、さまざまなアプローチによって多角的に考究しています。このなかでも少年非行は、社会学的にみても大変興味深い研究対象です。現代社会は、先行きが不透明です。例えば、これまで安心して勤めていた会社が倒産したり、年功序列制度または終身雇用制度が業績主義的な評価の下で能力給に変わったり、非正規雇用へと転化しています。このような将来を設計しづらい流動化する社会が現代社会といえます。このような流動化する社会のなかで、青少年は世の中の動きを敏感にキャッチし、自らの言動に反映します。また非行や犯罪は、新しい技術や文化から派生する法律の未整備なグレーゾーンを狙ったケースが多いことも指摘されます。つまり、両者をあわせ持つ少年非行をみることは、現代社会を解読することに直結するといえるのです。

しかし、その少年非行に対する理解や対応を考えるとき難しい点も指摘されます。例えば、法整備が追い付いていない仮想通貨や新手の詐欺などは、悪い意味で一步先を行っていると思います。また、SNSが一般化することで、特殊詐

れ育った地元で警察官となりました。勤務をしているなかで、非行少年と向き合うとき少年自身の家庭環境や社会環境の厳しい現実を知ることになりました。そのような少年を含めたさまざまな人びとの関わりのなかで、改めて青少年に教員として深く関わりたいという気持ちが高まり、大学への進学を決意しました。在学中は、教職課程をはじめとして他の学問分野にも興味関心が広がっていきました。そのなかで、初めて社会学に出会い、その客観的な視点から複眼的に物事を考究する先行研究の内容に惹かれていきました。その後は、教員免許を取得しましたが社会学を学ぶために修士課程に進学し、修了後は法務教官として少年院に勤務しました。

家庭裁判所から保護処分として送致された少年を収容する少年院は、罰則を与えるよりも少年自身の更生と社会復帰が重視されるため、成人の刑事施設と異なり刑期がありません。勤務した施設は、主に知的障害や情緒障害をもつ少年が入院しており、少年に対する伝え方や接し方に難しさを感じることもありました。しかし、少年たち自身が表面を取り繕うだけでは自身の問題を解決できないことを学び、改めて自己を見つめ直すことで、贖罪を含めて立ち直っていく姿に立ち会えたことはなによりうれしかったですね。その後、物理的・精神的に居場所のない青少年が非行に走るのを防ぐためには、家庭環境や社会環境について実証的に研究し、現場へしっかりとフィードバックしていかな

欺などのツールとして利用されるほか、非行コミュニティからの離脱を阻害する要因になっていることもあります。かつては出院（少年院から出ることを）をきっかけに非行グループと離れ、新しく自立した生活を送ることが立ち直りの重要なプロセスのひとつだったのですが、今はスマートフォンなどを駆使すれば容易に交流が再開できてしまします。声をかけられ、また行動を共にするようになると、いくら本人が望んでも簡単に縁を切ることができません。

社会復帰への支援は少しずつ手厚くなってお



り、実は非行少年の数自体は減少しているのですが、今後は支援のアプローチをどのように変化させるかが重要なポイントになっていくでしょう。

非行少年に対する調査はインタビューとアンケートでおこなっています。インタビューの際は本人と保護者の同意を取得し、法務教官の立会を介さない1対1の面談を実現するために非常時の呼び出しベルを用意したりと、状況に配慮をして進めていましたが、新型コロナウイルス感染症の影響で、2年間は現地調査が実施できていません。「少年たちのために何かできないか」と常々考えている私にとってはもどかしい時期でしたが、現在少しずつ規制が緩和され、ようやく再開のめどがたつてきました。引き続き非行問題に注視したいと思っています。

研究推進機構長として研究を支える

大学の教育・社会活動・運営など、大学教員の能力を広範囲に高めることを目的とした研究推進機構の機構長の立場として2年めとなりました。教育・研究の成果を広く世界に発信・還元していくという考えのもと、大学教員の研究活動を組織的に支え、科学研究費助成事業をはじめとする研究資金の獲得や社会への情報発信を推進しています。研究者にとって最大の目標は学術研究の継続ですが、そのためには研究費が欠かせません。常識を覆すような研究テーマや緻密な研究計画にも関わらず採択されな

9年刊)は古典でありながら、日常生活と現代社会の変化をどのように結びつけて捉えているのかという、社会学的な視点と魅力が詰まった内容となっています。これらの基本的な本を読み進めることで、次の段階として興味のある分野に関わる社会学の専門書に移行していきます。



『いじめと規範意識の社会学—調査からみた規範意識の特徴と変化— (佛教大学研究叢書)』 (2020年、ミネルヴァ書房)



『近代日本の少年非行史—「不良少年」親に関する歴史社会学的研究—』 (2018年、学文社)

このような専門書は、高額なため学生にとっては手の届きにくいものです。図書館はそんな学生時代から今に至るまで包括的に支えてくれ

いケースもあります。そこで私たちは申請書の添削や対策についてYouTubeなどを活用し、教職員の情報交換や共有を積極的に推し進めています。また研究推進機構には、法然仏教学研究センターや総合研究所、臨床心理学研究センターや社会連携センター、宗教文化ミュージアムなどの研究所や研究センターが附置されています。そのなかで、総合研究所は、開設から30周年を迎えており、現在に至るまでさまざまな研究テーマに対して組織された共同研究に対して助成をおこなっています。その成果は、『佛教大学総合研究所紀要』や『佛教大学総合研究所報』などの刊行物として公表されており、各共同研究に関連したシンポジウムを開催して広く社会に還元しています。また他のセンターやミュージアムにおいても同様に、紀要『佛教大学法然仏教学研究センター紀要』『佛教大学臨床心理学研究紀要』『佛教大学社会連携センター年報』『佛教大学宗教文化ミュージアム研究紀要』やイベントを通じて社会へ活発に発信しています。

他方で産官学公連携によるイノベーションの創出と地域課題の取り組みも重要な活動のひとつです。企業にとっては自社にはないノウハウを活用できる、大学にとっては市場ニーズに沿った研究、企業からの資源を活用した研究開発ができると、それぞれがメリットを持ちます。現在、多くの自治体が人口減少や高齢化、事業の後継者不足、貧困家庭の増加といった課題を抱えており、社会全体に地域課題の解決に対

しました。

色々な図書館を活用してきましたが本学の図書館はかなり充実していると感じています。長年各学部で利用する書籍を中心にして収集されてきた歴史がありますので、他では見ることのできない古くて貴重な書物も長年にわたり維持・管理されているのです。紫野キャンパス図書館の地下2階には閉架書庫があるのをご存知でしょうか？ 街の書店にはない希少な本、戦前の書籍が排架されており、その様子はまるで宝の山です。

少しマニアックかもしれませんがおすすめの利用法があります。それは検索だけに頼らないこと。目的の本がある場合は当然調べたほうが早いのですが、特に目的がないまま本棚を眺めていると、はつきりと目に飛び込んでくる一冊を突然発見することがあります。本との出会いに事欠かない大学図書館は訪れるだけでも知的好奇心を満

する機運が高まっています。研究推進機構は学内のゼミ単位でおこなわれている地域社会連携活動に、多くの学生や地域を巻き込んでいっそう盛り上げていきたいと考えています。

大学図書館ならではの魅力

私は高校まであまり本を読まずに過ごしてきましたが、社会学に夢中になってから図書館に通い始めました。難解な図書はすぐに理解できないため、まずは基本書をゆっくり少しずつ読み込んでいきました。

社会学のなかで基本書といえば、フランスの社会学者エミール・デュルケムが著した『自殺論』(1897年刊)とドイツの社会科学者マックス・ヴェーバーが著した『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』(1905年刊)などがあげられます。また、ライト・ミルズの『社会学的想像力』(195



たしてくれると思いますよ。

そして特筆すべきは、学術情報の収集や論文レポート作成のための「BRD」(Bukkyo university library's Information & Research Databases)という図書館ポータルサイトです。非行少年と学校の教師についての歴史を紐解くため、戦前の新聞記事を調査しているところなのですが、自宅から資料の閲覧ができるのは便利ですね。BRDの利用をきっかけに図書館を訪れて実際の本に触れるのも楽しいのではないのでしょうか。ぜひ図書館を有効に活用して、奥深い学問の世界を満喫してください。

社会学部現代社会学科教授
研究推進機構長

さくた せいいちろう
作田 誠一郎

福岡県生まれ。山口大学大学院東アジア研究科修了。博士(学術)。専門は少年非行論、教育社会学、犯罪社会学。法務省法務教官、山口大学非常勤講師、北九州市立大学非常勤講師、山梨学院短期大学准教授を経て、現職に至る。
主な著書に、『近代日本の少年非行史—「不良少年」親に関する歴史社会学的研究—』(2018年、学文社)、『いじめと規範意識の社会学—調査からみた規範意識の特徴と変化— (佛教大学研究叢書)』(2020年、ミネルヴァ書房)

情報の蒐集・考察・発信

: 目録についての回顧と展望

仏教学部仏教学科教授 細田 典明



図2 Vande Mataram Library のサイトからネット上の検索もできます。
<https://vmlt.in/ncc/>

の思想を知る上で特に重要な古ウパニシャッドの『プリハッド・アーラニヤカ・ウパニシャッド』の注釈は、ヴェーダーンタ学派の巨匠シャンカラによる注釈とアーナンダギリによる複注が代表的で、他に数種類の注釈が刊行されていますが、この「目録の目録」第2巻の補遺から、従来知られていなかった、サーンキヤ学派のヴィジュニャーニャ・ビクシユ注を発見することが出来ました。

その後、この写本を所蔵するインドのカル Катタ(現:コルカタ)大学のサンスクリット・カレッジに行つて撮影後、デーヴァナーガリー文字をローマ字に翻刻した成果を科研費報告書に掲載しましたが、ローマ字化の作業も多くの時間を割くことになりました。

アウフレツヒトの「目録の目録」は五十六の写本目録を網羅しましたが、この仕事は一九三五年からインド・マドラス大学に引き継がれ、一〇〇冊以上の写本目録を網羅し、全四十二巻の完結迄あと数巻になりましたが、約一〇〇年の期間を有しています。

New Catalogus Catalogorum, published by University Of Madras, Chennai, 1935. (図2)

写本目録: 写本の翻刻

翻刻の作業も多くの時間を割きますが、写本目録の中には、ローマ字転写を含むものもあります。

Sanskrithandschriften aus den Turfanfunden, T.1-T.12
herausgegeben und mit einer Einleitung versehen von Ernst Waldschmidt, Göttingen: 1965-2017.

この写本目録は、公刊された原典・研究に含まれるローマ字テキスト以外の部分は、零細な断片の文字もすべて翻刻し、索引と写本の写真の一部を掲載しています。

初期仏教の資料は南伝のニカヤと北伝の阿含(アガマ)が基本となりますが、ニカヤ経典は今日まで完全な形で伝承されていますが、阿含経典は漢訳のみが現存し、サンスクリット原典は失われ、二十世紀初頭に欧米諸国や日本の中央アジア探検によって原典(の断片)が蒐集

情報の蒐集・考察・発信と聞思修の三慧

仏教では、智慧(Pris)般若(もん)、思(し)、修(しゅう)の三からなるといわれます。

「聞」は聞くことですが、ブツダ在世の当時は聞いたことを覚えて学習しました。

「思」は学んだことをよく考えて、ものごとを観察していきます。

「修」は学んで考察したことを踏まえて実践することであり、聞思修の三慧によって段階的に智慧が体得されていきます。

聞くことによる学習は、やがて筆記することになるとともに、文字化された情報は、書写することを経て印刷によって冊子本による知識の取得が可能になりました。今日では、教科書と教師による授業が一般的ですが、パソコンの普及によって、教室に行かなくても受講出来るようになりました。

佛教大学では、コロナ禍以前の早い時期から通信教育による授業を行ない、多くの卒業生を送り出していることは、特筆すべきことです。

この聞思修の三慧は、現代において情報の蒐集・考察・(研究成果の)発信に当てはまると考えられます。

研究資料

私の専門分野は、古ウパニシャッドから初期仏教に至るインド思想を主要な研究対象としま

す。

研究資料は、原典・翻訳・研究など、どの分野にも共通しますが、従来知られていない新資料としての写本に関する情報も重要です。

写本目録: 「目録の目録」

こうした写本情報は所蔵機関から出版されている写本目録から蒐集しますが、数百とある写本目録をそれぞれに機関に行つて調査する事は不可能です。そこで、「目録の目録」を利用することによって写本調査に関わる作業を軽減します。「目録の目録」の中

Th. Auchrecht, *Catalogous Catalogorum*, Vol.1-3. Leipzig: 1891, 1896, 1903. (図1)

が詳しく、仏教以前

bṛhadāraṇyakopaniṣad Cs. 136. 137 (inc.). CU. add. 883. Hz. 201. Rgb. 27 (fr.). Stein 6 (inc.). 32. C. Bhāṣya by Śān 'karācārya. Cs. 140. CU. add. 2492 (fr.). Fl. 6. Hz. 221. 329. Stein 92. CC. by Ānandatīrtha. Cs. 590 (adhy. 5 inc.). Stein 32. 33. C. by Ānandatīrtha. Cs. 144 (inc.). Gov. Or. Libr. Madras 58. CC. Parabrahmaprakāśikā by Raghūttama. Cs. 141. C. Mukhyārthaparakāśikā by Dvivedagāṅga. Stein 6 (prap. 5). C. Mitākṣarā by Nityānandāśrama. Cs. 145. 591. Gov. Or. Libr. Madras 58. Hz. 548. Stein 33. Weber 2095. C. Bṛhadāraṇyakopaniṣadarthasamgraha by Rāghavendra. Stein 32. C. by Vijñānabhikṣu. Cs. 138 (inc.). 139 (inc.).

図1 1962年、1998年にリプリント。2018年以降、ネット上で検索することも可能になりました。
http://gretil.sub.uni-goettingen.de/gretil/6_sres/1_comp/aufrc_u.htm



図3(上)
最初の阿含経サンスクリット原典となった木版刷版本。表面左端・裏面右端に「雑阿含五卷(巳は巻の変体字)」と記載。山田龍城『梵語仏典の諸文献』(平楽寺書店、1959年)扉頁に「雑阿含五卷一五八上」の写真掲載。中村元 他 監修・編『シルクロードの宗教』『アジア仏教史 中国編 V』(校正出版社、1975年)230頁「挿(図)119」にも見られるが、従来の解読には誤解が多く、トルファン出土の阿含経を精査するきっかけとなった。
Depositum der BBAW(=Berlin-Brandenburgische Akademie der Wissenschaften) in der Staatsbibliothek zu Berlin-Preussischer Kulturbesitz Orientabteilung.
http://idp.bl.uk/database/oo_scroll_h.a4d?uid=480349326;recnum=99829;index=19

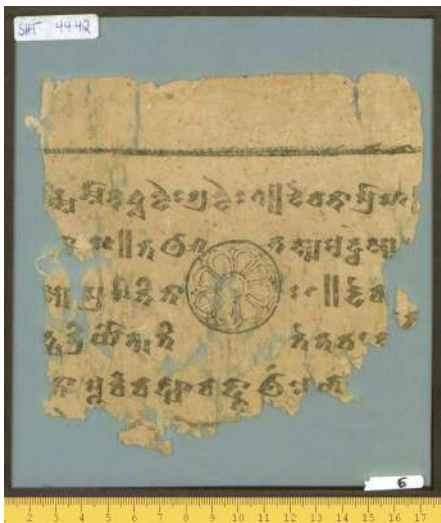


図3(下)
図3(上)と同種の木版刷版本の断片。表面と裏面が剥離されている。
http://idp.bl.uk/database/oo_scroll_h.a4d?uid=481160585;recnum=107340;index=6 ©BBAW

ました。
一九八五年当時、『ダンマパダ(Dhammapada)』の翻訳を「LC」で調査したところ、「二十四言語・九〇冊の翻訳が刊行されていることを知りました。当時は『法句経』と漢字で検索することは出来ず、パソコンで表示・記録出来る漢字は第二水準までに限られていましたが、一日かかる仕事を数分で記録まで出来ることに爽快感を覚えたものです。

印刷物とネット情報

一九八二年、NECのPC-9801シリーズの発売以降、インターネット・コンテンツは飛躍的に拡張しました。文系の研究室にも一台は置かれるようになりました。それまで、専門

この目録の作成は、内容を調べた上でまとめている点が評価されます。専門誌と非専門誌の媒介として図書館の役割が果たされています。重要なことは、理解を通じた情報で、人から学び(蒐集)、考察し、伝える(発信)ことが実現されています。

蔵書の可視化: 『常照』『新収資料紹介』

佛教大学には貴重な和古書を多く所蔵していますが、これをデジタルコレクションとして、写本の翻刻や翻訳を進められています。これは先に挙げた『トルファン出土サンスクリット写本(目録)』と同じように、その内容が可視化され、情報として活性化されることを意味しています。

近世・近代の情報は専門研究に資するばかりではなく、理系も含む分野に有益な情報を供することもあります。くずし字で書かれる和古書は読みづらいものですが、地震関係の研究者がくずし字翻刻アプリを使って古文書の地震の記事を集めていることを聞いたことがあります。天災や天気の記事はもとより、その当時の記録がエビデンスとして計り知れない価値を持っています。

多くの専門分野の教職員によって、様々な内容や情報源を紹介する『常照』は、情報の道しるべとして、研究や教育、そして社会に貢献しています。

相手がインドの場合、よくある話で現地に行つて撮影した次第です。

『トルファン出土サンスクリット写本(目録)』では、当初写本の写真をすべて掲載する計画でしたが、予算の関係ですべて図版化することは出来なかったことを、このプロジェクトの主催者であるH.ベッヘルト教授から伺ったことがあります。

蔵書の可視化: 『印度学・佛教学関係論文目録』

インターネット普及以前も以降も、専門に関連する情報すべてを得ることは出来ませんが、研究室に寄贈される出版物の中で、佛教大学から送られる本誌『常照』はとても参考になりました。

『常照』No.5(一九七四年六月)から「佛教関係論文目録」が連載され、その後『印度学・佛教学関係論文目録』として別冊になり、『常照』No.41(一九九六年十月)まで続きました。この目録の特徴は、

佛教大学図書館に収蔵する雑誌の内「仏教専門誌を除き、「非仏教専門誌」のすべてから、ひろく印度学(歴史・地理・語学)・佛教学(教理・思想・芸術・民俗)関係の論文およびエッセイを抽出した。

その理由は、研究者が見落としがちであるので、その遺漏を防ぐことをねらいとしたことによる。

分野の新刊書を見に書店に行きました。が、この頃からパソコン専門誌のコーナーに立寄ることが多くなり、その中でもソフトバンク出版の『OnIPC』はよく購入しました。

パソコンの普及により、専門分野でも、インド学仏教学論文データベース(<http://www.inbuds.net/jpn/index.html>)大正新脩大蔵経テキストデータベース(<http://21dzk.l.u-tokyo.ac.jp/SAT/>)中華電子佛典協會(CBETA)(<http://www.cbeta.org/index.html>)IDP国際敦煌プロジェクト(<http://idp.bl.uk/>)
・The Pali Tipitaka(<http://www.tipitaka.org/>)
・TITUS Thesaurus Indogermanischer Text- und Sprach materialien(<http://titus.uni-frankfurt.de/indexe.htm>)等のサイトが立ち上がり、情報蒐集の上でなくてはならないものとなりました。

しかし、すべての情報がネット上で得られる訳ではありません。

「目録の目録」や蔵書目録は研究資料の存在を調べるうえで不可欠な資料ですが、発見した新資料である写本を得るにはマイクロフィルムやコピーを取り寄せる必要がありました。

先に触れたサンスクリット・カレッツ所蔵の写本も図書館を通じて複写依頼をしましたが、一年経っても二年経っても返事はありません。



ほそだ のりあき
細田 典明 仏教学部仏教学科教授

1985年 北海道大学大学院文学研究科博士後期課程 単位取得退学
1985年 北海道大学文学部助手
1993年 北海道大学文学部助教授
1995年 北海道大学大学院文学研究科助教授
2007年 北海道大学大学院文学研究科教授
2019年 佛教大学仏教学部仏教学科教授

白雲書庫本の謎を追う

—図書館という「現場」から—

文学部日本文学科教授 土佐 朋子

「佛教大学前」から市バスで少し北へ行くと、「玄塚下」という停留所がある。停留所の数で言えば、「佛教大学前」から三つ目、歩いても十分ほどのところである。「玄塚下」から鷹峯の方に向かって広がる傾斜地は、「玄塚」と呼ばれている。今では閑静な住宅街となっているこの「玄塚」に、かつて「野間三竹」という一大蔵書家が住んでいた。

野間三竹（慶長二十年（一六一五）～延宝四年（一六七六）は、父である野間玄塚の跡を継いで、幕府の医官も務めた江戸初期の儒医である。林羅山・鷲峰・読耕斎、石川丈山などの知識人たちと深く交流し、幅広い分野の著作物を遺している。

「玄塚」という地名は、野間玄塚が居を構えたことに由来する。今も常照寺のすぐわきに、野間玄塚、三竹はじめ野間一族が眠っている（写真1）。玄塚の傾斜地はなかなか急だが、登っていくと東山の麓の街並みや、光を反射して流れる鴨川を遠く眺めることができる。今ではその眺望も家と家の隙間から見る断片的なものとなっているが、野間一族が住んでいた当時は、きっと

京都の一大パノラマを見下ろすことができただろう。

玄塚に遺るお土居は、中世期においてこの辺りが洛内外の境界として認識されていたことを窺わせる。ちょうど野間玄塚、三竹が居住していた近世初期には、本阿弥光悦が家康からの辺り一帯に土地を与えられ、芸術の楽園・光悦村を開いたという。玄塚周辺は、塵芥にまみれた洛中を遠く見下ろす脱俗の理想郷だとイメージされたのではないだろうか。

野間三竹の蔵書には「白雲書庫」という印記が押されている（写真2）。「白雲」は仙境のシンボ



写真1 野間三竹の墓。「柳谷」は三竹の号。「子苞」は三竹の字。

ルである。古代中国周の時代、穆王が仙境で西王母に会った時、西王母が穆王に「白雲天に在り、山陵より出づ」で始まる「白雲謡」を謡い、白雲たなびく仙境への再来を請うたという伝説が残る。三竹の蔵書印「白雲書庫」からは、玄塚という仙境で、蒐集した書物の世界を逍遙する三竹の姿が目に見えそうだ。

惜しいことに、白雲書庫の蔵書はちりぢりばらばらになってしまった。が、京都大学附属図書館に、陽明文庫蔵本を転写した『白雲溪書庫目』という目録が蔵されている。いつの時点の目録かは不明であるが、一七〇〇点ほどの書籍が記されている。一点につき十冊、十五冊とある書籍も少なくないから、冊数にするとかなりの量になるはずである。

『白雲溪書庫目』に記された書物の一つに、『懷風藻』という日本古代の漢詩集がある（写真3）。自ら詞華集『本朝詩英』を編纂・刊行した三竹に



写真2 「白雲書庫」印
国文学研究資料館蔵書印データベースより

ふさわしい蔵本である。『本朝詩英』（寛文九年刊）は、林鶯峰の『本朝一人一首』（寛文五年刊）に次いで刊行された詞華集である。どちらも古代中世の日本漢詩を収録対象にした詞華集だが、時代順に配列する『本朝一人一首』に対し、『本朝詩英』は詩型ごとに分類している（写真4）。ま

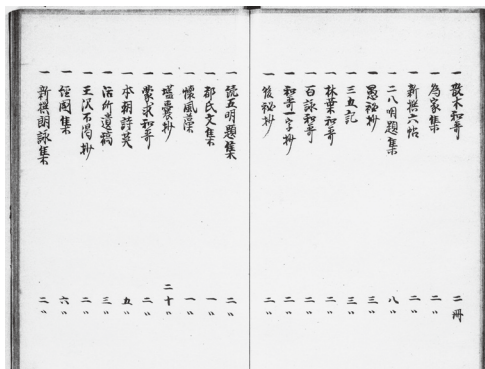


写真3 『白雲溪書庫目』44丁裏～45丁表。45丁表の右から3番目に『懷風藻』が記されている。
京都大学附属図書館所蔵

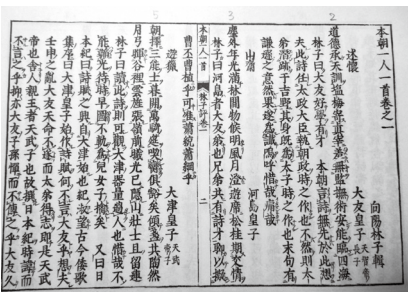


写真4
『本朝一人一首』(上)と『本朝詩英』(下)

た、『本朝一人一首』が詩人一人につき一首のみ採録するのに対して、『本朝詩英』では一人につき一首という限定はしていない。そのため、『懷風藻』から『本朝一人一首』に採録された詩数が六十四首であるのに対して、『本朝詩英』では九十三首と大幅に増えている。この数は『本朝詩英』の総詩数の約三割にあたる。九十三首のうち六十三首は『本朝一人一首』が採録した詩と重複しており、本文も『本朝一人一首』のものを踏襲する傾向にはある。しかし一方で、『本朝詩英』では、『本朝一人一首』の文字の欠落が補われ、文字が改訂されている箇所が確認される。そして何よりも『本朝詩英』には『本朝一人一首』が選ばなかった詩も収録されている。三竹は『本朝詩英』の編纂にあたり、白雲書庫に蔵した自身の『懷風藻』を用いて、『本朝一人一首』の不十分な点を補い、かつ独自の漢詩文観に基づいた詩の採択と配列を行ったことが窺われる。

この三竹の『懷風藻』は、今はない。しかし、どのような本文を持った写本だったのかを窺わせる『懷風藻』写本がある。佐賀県の祐徳稲荷神社中川文庫に蔵される肥前鹿島鍋島家旧蔵『懷風藻』以下、鍋島本である。鍋島本の巻末に記される按語の冒頭「北山子案ずるに…」の「北山子」は三竹の号である。そして、鍋島本と『本朝詩英』に収録された『懷風藻』の本

文とは一致度が高い。文事を好んだ肥前鹿島三代藩主の鍋島直條と三竹との間に深い交流があったことを考え併せれば、鍋島本は、直條が三竹から『懷風藻』を借用して書写したものである蓋然性が高い。もし白雲書庫に蔵されていた三竹の『懷風藻』が今も存在していたら、鍋島本に極めて近い本文を持つ写本だったに違いない。ところが、三竹が没して約三十年も経過した元禄十七年（一七〇四）になって、この三竹所蔵の『懷風藻』とは全く別の『白雲書庫本』なる写本が出現する。現在、川越市立中央図書館に蔵される屋代弘賢校本の巻末（写真5）にそれは記されている。

「白雲書庫本跋題」に云く、或人、西三条実隆公定本を齎し、予に示す。其の書、浄



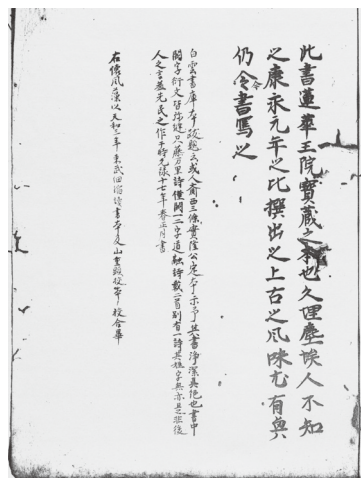


写真5 屋代弘賢校本の巻末
川越市立中央図書館所蔵

潔真絶なり。書中の闕字衍文は皆弥縫す。
只だ藤万里の詩、僅かに一二字を闕く。道
融詩二首、別に一首有り、其の姓字は無
し。亦た是れ後人の言に非ず、蓋し先民の
作なり。時に元禄十七年春正月書。

屋代弘賢(宝暦八年(一七五八)〜天保十二年
(一八四一))は、日本国中の典籍や古物を博搜し
て回った考証家であり、蒐集した蔵書は「不忍文
庫」として知られている。弘賢は、自身が参看し
た複数の写本を用いて、『懷風藻』の校本を作成
した。これが川越市立中央図書館蔵の屋代弘賢
校本である。「白雲書庫本」は弘賢が用いた写本
の一つだった。弘賢が書き取ったこの「跋題」に
よれば、「白雲書庫本」は、①三条西実隆の定本を
書写したものであり、②闕字などがほぼ補われ、
他本にはない詩も掲載され、③元禄十七年春正
月に書写された写本だということになる。

『懷風藻』は、天平勝宝三年(七五一)に成立し
て以来、長久二年(一〇四一)に文章生の惟宗孝
言に書写され、康永元年(一一三二)に蓮華王院
の箇所は、天和四年版本の本文とほぼ同一であ
る。「白雲書庫本」の書写者は、天和四年版本の墨
格に適当な文字を自分で考えて補い、あとは天
和四年版本の本文を引き写したのである。そう
でない、天和四年版本の墨格に限定的に、同時
期の写本群から隔絶した特殊な文字が現れ、そ
の他は天和四年版本と同じなどという本文が出
来上がるはずがない。

「白雲書庫本」だけが持つ特異な詩も「白雲書
庫本」の書写者が勝手に書き込んだものだろう。
天和四年版本を含めて現存する『懷風藻』諸本の
詩数は、序文に言う数に若干不足する。「白雲書
庫本」書写者はその不足を補おうとしたと推察
される。「白雲書庫本」の書写者は、確実に天和四
年版本を見ている。天和四年版本を見て創作さ
れたそのような本文が、中世を代表する古典学
者、三条西実隆の定本であるわけがない。元禄十
七年に出現した「白雲書庫本」は、天和四年版本
を見た書写者が、その闕字と詩数不足とを補い、
「三条西実隆」という箔を付けて、天下の古写本
を装った贋作本である。

したがって「白雲書庫本」にだけ現れる特殊な
本文は、元禄十七年に創作されたものであり、
『懷風藻』の元来の本文ではない。それにも拘ら
ず、群書類従『懷風藻』では正文として採用され、
巷間に流布することになってしまった。屋代弘
賢校本が群書類従『懷風藻』の編纂に用いられ
(写真7)、弘賢が校異として書き取った「白雲書
庫本」の本文を、ほぼ全て正文として採用したた
めである。考証学という江戸後期における最先

(三十三間堂)から発掘されて某氏に書写された
ということ以外、江戸期に至るまでの伝来が杏
として知れず、古写本は遺っていない。現存写本
は全て江戸期またはそれ以降に書写されたもの
ばかりである。もし、三条西実隆の定本だとい
うのが本当ならば、遅ればせながら天下の古写本
の出現ということになる。

弘賢が参看したこの「白雲書庫本」も既に遺っ
ていない。しかし、弘賢以外にも、近江の漢学者
である佐々木長卿と、誰だか分からないが東京
大学附属図書館南葵文庫に遺る伊勢貞丈旧蔵本
の書写者が「白雲書庫本」を参看し、断片的では
あるがその本文を書き取っている。弘賢、長卿、
某書写者の三人それぞれによって書き取られた
断片を用いて復元してみると、「白雲書庫本」は、
康永写本を共通祖本とする『懷風藻』現存諸本が
持たない特殊な本文を複数箇所を持ち、かつ他
の『懷風藻』諸本が持たない詩を三首掲載した、
江戸期の写本群とは独りかけ離れた特異な伝本
だったことが窺われる。一見すると、「江戸期を
遡る古写本か」と期待が高まりかけるが、しかし
落ち着いて現存諸本と比較対照させてみると、
おかしいことに気付く。

『懷風藻』は、江戸初期に残存していた古写本
の状態が相当に悪かったと見え、天和四年(一六
八四)に刊行された最初の版本の本文は、二十カ
所を超える欠落を抱え、墨格にされている(写真
6)。江戸初期には、徳川家康の文教政策を背景
として盛んに書写されるようになるが、判読困
難になった古写本の文字をどう読み取るかに

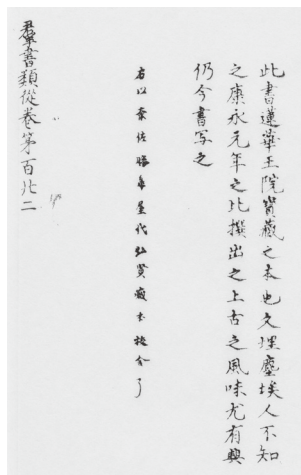


写真7 群書類従『懷風藻』の巻末。「右、奈佐勝皇屋代弘賢蔵本を以て校合了んぬ」との識語が記されている。奈佐勝皇本は未発見。

端の「科学」が生み出した成果として、考証家屋
代弘賢の校本に全幅の信頼が寄せられた結果
と言える。かくして、古代に成立した『懷風藻』
の本文は、江戸期
に大きく改変さ
れてしまうこと
になった。

このようなわ
けで、私が専門領
域とする奈良時
代までの文学を
研究するために
は、江戸期の資料
を追うことが必
要となる。二〇一
〇年頃から、全国
の所蔵機関に遺
る『懷風藻』の写
本・版本を見て
廻ってきた。中国
遼寧省図書館に

よって、異なる本文が生み出されていた。しか
し一方で、現存諸本は祖本が同じであるため、決
定的な本文の違いがあるわけではない。江戸初
期写本群における文字の相違は、例えば「澈」と
「徹」など、形が似ている別字という範疇におお
よそ収まる。似通った小さな相違を持つ本文が
グラデーションのなかったように分布するの
が、江戸初期の『懷風藻』写本群の特徴である。鍋
島本の本文もその中に位置するし、鍋島本の親
本だと推定される三竹所蔵の写本も当然、その
中に位置づけられるはずである。

しかしながら、元禄十七年に出現した「白雲書
庫本」は、それらの写本群の相違の範疇から逸脱
した、特殊な文字を持っている。例えば、江戸初
期写本群では
「招」と「拓」と
いう似た形の別
字に分かれる箇
所に、「白雲書
庫本」では形が
全く違う「異」
が書かれている
という具合であ
る。しかも、そのよ
うな特殊な文字が
現れるのは、天和
四年(一六八四)に
刊行された版本の
墨格の箇所に限定
される。それ以外



写真6 天和四年刊行の『懷風藻』

も行ってきた。『懷風藻』の最善本文を明らかに
するためである。水や火に弱い書物が、繰り返
される戦乱や災害をかくぐり、現代にまで遺
るということ自体が奇跡だが、それらと巡り会
えることはこの上もない僥倖である。そして、
巡り会った書物たちが、失われた書物の痕跡を
伝えてくれる。そんな巡り会いを可能にしてく
れるのは、生き延びてきた書物を更に生き延び
させるべく、保存に力を注いでくれる図書館で
ある。図書館は私の研究の「現場」である。だか
ら、私は今日もまた、暗い書庫で眠る書物との
巡り会いを求めて図書館に行く。



と さ ともこ
土佐 朋子 文学部日本文学科教授

早稲田大学大学院文学研究科博士後期課程中退。東京医科歯
科大学准教授を経て現職。専門は日本上代文学。著書に、『静嘉
堂文庫蔵『懷風藻箋註』本文と研究』(汲古書院、2018年)、『校
本 懷風藻』(新典社、2021年)、主な論文に、「紀古麻呂『望雪詩』
の論—理想の天子論」(『国語国文』86巻9号、2017年9月)、「『日
本書紀』大津皇子伝の意図—『詩賦之興、自大津始也』の意味
—」(『日本文学研究ジャーナル』14号、2020年6月)など。

図書館での認知症啓発の取り組み

社会福祉学部社会福祉学科准教授

新井 康友

認知症をいち早く扱った文学作品

今日では認知症という言葉を知らない人はいないと思います。1972年に出版された有吉佐和子『恍惚の人』（新潮社）が話題になり、認知症が注目されました。恍惚とは「老人の、病的に頭がぼんやりしているさま」という意味です。本書は認知症をいち早く扱った文学作品と言えます。『恍惚の人』は1972年の年間売り上げ第1位で194万部のベストセラーとなり、その関心度の高さから「恍惚の人」は当時の流行語にもなりました。しかし、『恍惚の人』が出版された2年前の1970年にわが国は高齢化社会（高齢化率7%）に突入したばかりで、当時は今日のように高齢者の介護問題がクローズアップされていない時期でした。当時は、まだ「認知症」ではなく、「痴呆（ちほう）」という言葉が使用されていました。

『恍惚の人』のあらすじは、認知症が進行した

親と息子家族との心の触れ合いを温かいまなざしで描いた作品ですが、認知症高齢者への介護の大変さも生々しく描かれていました。しかし、本書には認知症当事者の視点はほとんどありませんでした。

認知症当事者の語り

1994年9月21日、スコットランドのエディンバラで第10回国際アルツハイマー病協会国際会議が開催されました。会議の初日である9月21日を「世界アルツハイマーデー」と宣言されました。そして、毎年9月21日を中心に認知症の理解を広めようと全国各地でイベントが開催されています。京都でも京都タワーがオレンジ色にライトアップされています。オレンジ色は認知症支援のシンボルカラーです。また、2012年からは9月を「世界アルツハイマー月間」と定め、世界の各地でさまざまな取り組みが行わ

れています。

実は今から18年前になりますが、国立京都国際会館（京都市左京区）で国際アルツハイマー病協会「第20回国際会議・京都・2004」が開催され、2017年にも京都で再度開催されました。国際アルツハイマー病協会国際会議は、世界で最大規模の認知症に関する会議です。そして、2004年の国際会議では、福岡市在住の認知症当事者の男性が、日本人として初めて名前と顔を公表して登壇し、日々の生活を語りました。その後、各地で認知症の当事者たちがさまざまなセミナーで自身の体験談を語るようになりました。

聖マリアンナ医科大学名誉教授の長谷川和夫先生が2017年に認知症との診断を受けました。長谷川先生は認知症診断のための簡易スクリーニング検査として広く使われている「長谷川式簡易知能評価スケール」を1974年に開発しました。また、長谷川先生は侮蔑的な意味を

含む「痴呆」という呼称の変更を国に働きかけ、

「認知症」という新たな用語を提起した厚生労働省の『『痴呆』に替わる用語に関する検討会』（2004年）の委員も務めました。認知症診療の第一人者である長谷川先生が亡くなる2021年まで、認知症専門医として、また認知症当事者として、認知症への理解を広げることに関心を注がれました。長谷川先生の『ボクはやっと認知症のことになった』がきっかけで、自らも認知症になった専門医が、日本人に伝えたい遺言』（KADOKAWA、2019年）は認知症診療の専門医だからこそ語ることができる内容です。そのため、保健・医療・福祉に携わる専門職や家族介護をしている方たちに読んで欲しい一冊です。

図書を通しての認知症啓発

私も会員になっている「公益社団法人認知症の人と家族の会」は、2019年度よりアルツハイマー月間の取り組みの一環として「読む・知る・認知症」と題して、多くの認知症の書籍が出版される中で、認知症当事者とその家族への正しい理解を伝える書籍を厳選して、推薦図書を紹介しています。推薦図書には難しい専門書ではなく、大学生や若者など誰もがとつきやすい認知症に関する書籍が紹介されています。漫画や絵本もあります。推薦図書の一覧は、「認知症の人と家族の会」のホームページ

から閲覧することができます。

2020年度より京都市は醍醐中央図書館との共催で、認知症に関する書籍のブックレビューを世界アルツハイマー月間の9月に醍醐中央図書館で展示を行っています。これまでは醍醐地域の地域包括支援センターや介護保険事業所の職員、認知症啓発の展示に協力した図書館司書や「認知症の人と家族の会」の世話人がブックレビューを書いて展示を行ってきました



社会福祉学部「認知症啓発のためのブックレビュー展」
(2022年9月20日～10月4日、紫野キャンパス図書館1階)

た。3年目の2022年度は「卒業研究ゼミ」(新井ゼミ)の4年生が参加しました。

新井ゼミの学生は、高齢者福祉に関心のある学生が集まり、卒業後は特別養護老人ホームなどの介護職員になることを希望する者が多くいます。高齢者福祉に関心のある学生のため、2022年度春学期の新井ゼミでは、認知症啓発の取り組みとして、ゼミ生が多くの認知症に関する



新井ゼミ学生によるブックレビュー

の書籍の中から、推薦図書を1冊選んでブックレビューを作成し、醍醐中央図書館に展示していただきました。また、9月20日から10月4日まで紫野キャンパス図書館の入口の左手の展示コーナーでも展示させていただきました。

今回、ゼミ生が作成したブックレビューを読むと、私も読みたくなる書籍ばかりでした。私は下坂厚・下坂佳子『記憶とつなぐー若年性認知症と向き合う私たちのことー』(双葉社、2022年)を読みました。本書は、46歳で「若年性アルツハイマー型認知症」と診断された下坂厚さんとその妻である下坂佳子さんの気持ちが綴られています。さまざまな場面で、夫婦がどのように思っていたのかも分かりやすく紹介されていました。

本書を読んで、下坂厚さんが伝えたい「認知症であることが、その人のすべてではない」ということを痛感しました。認知症と診断されて大変なことも多々あるだろうけど、大変なことだけではないこともよく分かりました。そして、私は高齢者福祉論が専門で介護保険制度について講義をしています。若年性アルツハイマー型認知症」と診断された方は若く、身体的に自立しているため、介護保険制度ではカバーできない社会保障・社会福祉制度の整備が必要だと思いました。

今回、ゼミ生がブックレビューを作成するにあたり、急に認知症の書籍を読むのではなく、まずは学生自身が認知症に関して理解を深めるため、京都市保健福祉局の認知症地域支援推進員

ケア」とは、その言葉通り「その人を中心としたケア」です。

また、最近では、「ユマニチュード」という認知症ケアの技法が注目されています。ユマニチュードとは「人間らしさを取り戻す」ことを意味するフランス語の造語で、フランスの体育学の専門家イヴ・ジネストとロゼット・マレスコッティが開発しました。ユマニチュードでは、「見る」「話す」「触れる」「立つ」の4つのケア技法を介護を提供する側の心構えとして提唱されています。

現在、コロナ禍で研修の機会が減り、ましてや対面での研修はほとんどなく、図書から学ぶことが多くなっていると思います。私も「パーソン・センタード・ケア」や「ユマニチュード」に関する研修に参加したことがなく、専ら図書から学ぶことが多くなりました。本学の図書館にも「パーソン・センタード・ケア」や「ユマニチュード」に関する図書は、多数所蔵されているので、活用して欲しいと思います。

そして現在、ヤングケアラーに関して社会的関心が高まっています。本学の学生の中にもヤングケアラーがいるでしょう。また、認知症と診断を受けた家族がいる教職員もいると思います。大学図書館には認知症当事者の書籍もありますし、認知症ケアに関する書籍もたくさんあります。本学は保健医療技術学部もありますので、専門書は充実していると思います。私たちの研究を進めるためだけではなく、教職員や学生の学びを豊かにするために、今後ますます図書の充実を期待したいと思います。

の支援により、京都市紫野地域包括支援センターの協力を得て、「認知症サポーター養成講座」を受講しました。その際、『記憶とつなぐ』の著者である下坂厚さんにもお話をさせていただきました。

ちなみに認知症サポーターとは、認知症の人とその家族の「応援者(サポーター)」を指し、何か特別なことをするのではなく、認知症を正しく理解し、認知症の人やその家族を暖かい目で見守る人のことです。

認知症への偏見

国際アルツハイマー病協会(ADI)は、2019年4月から6月に、認知症についての世界規模の意識調査のレポートを公表しました。レポートによると、認知症当事者については、85%以上が「自分の意見を周囲が真剣に受け止めてくれないことがある」と回答していました。そして、認知症に対する根強い偏見や否定的な見方が各国共通の課題であることが紹介されました(朝日新聞「朝刊、2019年9月21日付」)。

認知症サポーター養成講座で下坂さんに話をしていたいた時も、下坂さんから「認知症になると、何もわからなくなり、何もできなくなった人と思われる」と話されていました。

認知症当事者である佐藤雅彦さんが執筆した『認知症になった私が伝えたいこと』(大月書店、2014年)には、以下の内容が記されています。



新井 康友 社会福祉学部社会福祉学科准教授／学生支援推進室長

あらい やすとも
新井 康友

立命館大学大学院社会学研究科博士後期課程満期退学。大学卒業後、特別養護老人ホームで介護職員・生活相談員、訪問介護事業所でホームヘルパーとして勤務。羽衣学園短期大学、羽衣国際大学、中部学院大学を経て、2017年4月より現職。専門分野は高齢者福祉論。著書に『社会的孤立死する高齢者たち』(共著、日本機関紙出版センター、2022年)、『北東アジアにおける高齢者の生活課題と社会的孤立』(共著、クリエイツかもがわ、2019年)など。

認知症ケアの考え方

認知症当事者への偏見がある一方で、認知症ケアの技法も進化してきています。

1990年頃までは認知症ケアは、認知症の人の行動を「問題行動」と捉え、言動や行動を押さえつけたり、止めさせたりするものが多く、介護者本位のケアが行われていました。これに対して、「パーソン・センタード・ケア」は、認知症の人のさまざまな言動や行動の理由を、その立場に立って考えていくという「利用者本位」の視点からのケアを言います。「パーソン・センタード・

認知症は、世間で言われているような怖い病気でしょうか。
私は、自分が認知症になり、できないことは増えましたが、できることもたくさんあることに気がつきました。

認知症の診断を受けて9年になりますが、いまでも一人暮らしを続けています。
認知症であっても、いろいろな能力が残されているのです。

社会にある認知症に対する偏った情報、誤った見方は、認知症と診断された人自身にも、それを信じさせてしまします。

この二重の偏見は、認知症と生きようとする当事者の力を奪い、生きる希望を覆い隠すものです。

私は、そのような誤解、偏見を、なくしていきたいと考えています。

クラウド型図書館システムが

もたらした新しい資料管理

図書館専門職員 藤本 由佳子

はじめに

二〇二〇年六月にクラウド型図書館システム「Alma」を導入して、はや二年が過ぎた。その間、幾度にもわたって新型コロナウイルス感染症の緊急事態宣言が発出され、佛教大学図書館（以下、当館）も閉館や業務縮小せざるを得ず、導入後のシステム調整がままならない期間が続いた。まずは本来業務を最優先に注力しながらも、同時に抜本的な業務フローの見直しを進める必要があった。これまでの図書館システムとあらゆる点で異なるAlmaに慣れるまでには、実際時間は要したが、やがて円滑な業務遂行ができるようになった頃、ようやくその特性を生かした新しい図書館資料の管理について模索、実践することが可能となった。ここではその取り組みのいくつかを紹介したい。

の両方を持つ資料、博士論文の管理において効果を発揮することになった。

佛教大学で学位が授与された博士論文の現物は、閲覧のみ可能な図書資料として当館で管理されている。二〇一三年四月一日以降、博士論文のインターネット公開が国により原則義務化されると、従来の冊子体に加え、デジタルデータが「佛教大学論文目録リポジトリ(BAKER)」を通じて公開されるようになった。このBAKERの公開中の個別の論文は、もちろん直接機関リポジトリのサイトにアクセスして検索することが可能だが、図書館ポータルサイト「BIRD」の検索対象にもなっており、「お気軽検索」の検索結果一覧からBAKERサイトへ移動できるようにになっている。このように利用者にとっては資料へのアクセスに不便がないよう工夫が施されているが、あくまでも冊子体資料は図書館システムで、デジタルデータは機関リポジトリのシステムで、というように別々に管理、運用されている。資料およびデータの維持や管理面から考えると、これらと同じシステムで、さらには同一の書誌上で一元的に扱う意義は大きいはずである。もちろん利用者にとっても、検索結果が資料種別ごとにばらばらに表示されるよりは、内容が同じであるなら一本化されて表示された方がわかりやすく、利便性も高まるだろう。

当館で管理するPDF形式の博士論文のデジタルデータは、二〇二二年六月現在で七〇点余りになる。多くが「本文」もしくは「要約」と、「論文の概要および審査結果の要旨」（以下、要旨）で成り立っている。そこで、手始めにそれぞれを登録済みの冊子

紙とデジタルを同時に管理する

これまでの図書館システムでは、登録対象資料の媒体が異なると、それぞれ別々の書誌（本にまつわる情報の集合体のこと）にて登録、管理されてきた。かりに冊子体と電子書籍の両方を所蔵、購読していた場合、タイトルや著者名、出版者や発行年、ページ数等が一致し、中身も同じであったとしても、まったくの「別物」として取り扱わなくてはならなかったのだ。ところが新図書館システムは、そのような考え方とは異なる概念で運用されている。すなわち、Almaでは書誌が資料種別に左右されないものである。内容がまったく同じであれば、紙の資料もデジタル資料も同一書誌に紐づけることが可能となり、形態が異なろうとも一律に取り扱えるようになったのだ。それは、冊子体とデジタルデー

体の書誌に関連付ける作業を行った。

図1は、「お気軽検索」によってある博士論文を検索した結果である。関連性の高い情報が上位に表示されるようフルタイトルを入力したが、検索結果の一番目と二番目に表示されているものが図書館



図1 お気軽検索の結果

システムのAlmaに登録したデータで、三番目と四番目に表示されているものはBAKER内のリンク先を表示したものである。検索結果の一番目ないし二番目の表示をクリックすると、切り替わった画面が図2である。

ひとつの書誌のもとにデジタルデータである「本文」と「要旨」、冊子体資料のいずれもが関連付けられているのがわかるだろう。内容が同じであれば同一の書誌で管理するという、ごくシンプルな発想ながらも、従来の図書館システムでは叶わなかった資料管理により、利用者にとっても非常にわかりやすい仕組みとなったと言える。なお、サムネイルも

図2 個別結果



にはオリジナルの冊子体資料から作成されたデジタルデータを「表現物(Representation)」として登録できる仕組みがあり、これにより様々な関連資料を登録することが可能になった。すなわち、修理記録データを表現物の一種とみなして登録したのだ。Almaで検索すると、現物資料の所在場所や請求記号、登録番号などとともに、関連付けられた修理記録データが表示され、すぐにその資料が修復後のものであることがわかるようになった。博士論文のデジタルデータとは異なり、修理記録データは非公開としているが、いずれにせよこれまでなら不可能だったデータ管理を実践することができるようになったのである。

おわりに

本稿では、Alma導入により可能となった新しい資料管理のあり方について述べてきた。それは、システムにおける資料のとらえ方の概念が変わったことによってもたらされたが、書誌自体の記述仕様が変更されたことも大きな影響を及ぼした。柔軟に幅広く資料を表現できるようになったおかげで、従来のシステムでは管理対象外だった一枚物のチラシや新聞記事などの資料がAlmaでは登録できるようになった。しかも、特殊な独自ルールでの運用ではなく、国際規格に則って記述するようになったことは、本学の学術情報を発信、利活用を推進するうえでも効果を発揮することになるだろう。

大学図書館が紙の本だけでなく多種多様な形態の「情報」を扱うようになっていぶんになるが、

設定できるため、一律「要旨」が表示されるようにした。拡大表示ができないので詳細を読み取ることができないが、検索結果が表示された際、一見して博士論文であることがわかるように、とのねらいからである。

修理記録との関連付け

形態が異なるものを同一の書誌に紐づけられるようになったことは、これまでになく資料管理のあり方を実践可能にした。その資料に付随する管理上の情報、たとえば修理記録なども関連付けることができるようになったのである。

当館は仏教関連の資料を始め、相当数の和漢古書を所蔵している。将来にわたって利用できるよう資料保全に取り組んでいるが、汚損や破損、虫害が目立つものも少なくない。このうち、貴重書や準貴重書以外の比較的利用頻度の高いものについては、順次修復を進めているが、その修理記録(ワード形式)はこれまでは図書館システムとは別の事務用共有フォルダに格納するのみであった。年度別に作成されたフォルダでの管理は、ただ修理記録の内容を確認するだけなら十分である。しかしながら、個々の現物資料の登録データと結びついていないため、図書館システムで検索してもその資料が修理されたものであるかは、データからは判断できなかった。不便ではあったも仕組み上やむをえなかったこの問題が、この度のAlma導入によって一気に解決へと導かれた。博士論文のデジタルデータを登録した手法と同じやり方を取り入れたのである。Alma

デジタル資料ひとつとっても様々だ。たとえば、商用の電子書籍、原本である紙の資料からデジタル複製されたもの、アナログデータは存在せず最初からデジタルデータとして制作されたものなどに大別される。いずれもデジタルメディアであるという共通点はあるが、異なる出自のもとに生成された資料を、ましてや紙の図書と一元的に管理、運営することは難しく、全国多くの大学図書館の課題として認識されてきた。当館でもAlma導入によってこの大きな課題の解決によりやく一步進めることができたのだ。

非常に複雑で種々雑多な「情報」を、いかにシンプルに管理することができるか。そうした困難な問題にも弾力的に対応できるであろうAlmaの特性に、今後期待したいところである。



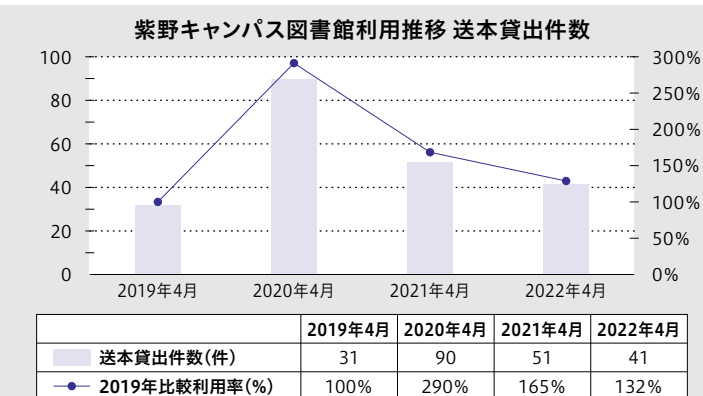
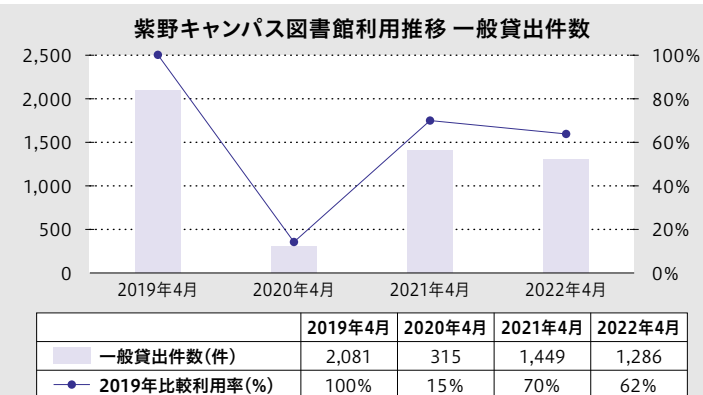
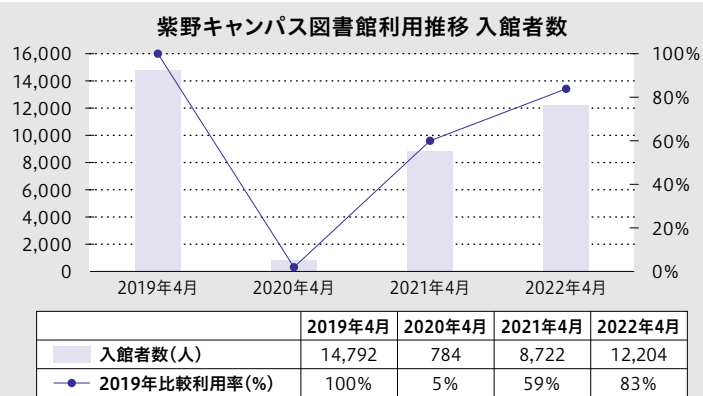
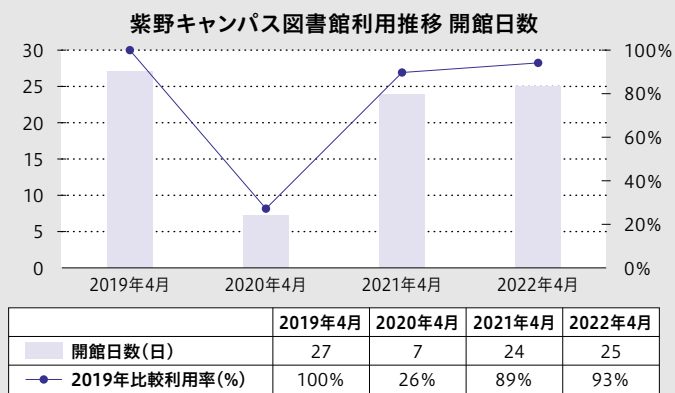
紫野キャンパス図書館 利用率推移(2019～2022年度)

2020年3月から新型コロナウイルス感染症に対する様々な対策を実施し、2020年4月9日から6月7日まで図書館を臨時休館するという異例の事態も経験しました。現在も種々感染症対策を継続しています。

この間にわたる図書館の利用状況を、コロナ禍以前の2019年を基本にし、2020年、2021年、2022年4月の比較利用率を算出しました。

数字の状況からは、入館者は8割戻ってきているものの、一般貸出件数が6割に留まっています。これは図書館が、館内閲覧や持込機器によるオンライン授業の場所、学生の居場所として利用されているであろう傾向が推測されます。また、昨今個人PCの必須化により、研究室の利用も変化していることが伺え、比較利用率でみると以前の4割の利用に留まっています。その一方で、送本貸出は、2020年をピークに徐々に減っているものの、現在も利用対象者の拡大を継続していることなども要因となり、引き続き高い水準を維持しています。

今後も引き続き感染症対策を講じながらの開館となりますが、資料の収集・整理・保存管理に努め、利用者への資料の提供・サービスが滞ることなく、図書館を維持できるよう努力を継続いたします。



【紫野キャンパス図書館 利用率】(2019年4月利用実績をもとに、2020～2022年4月の利用率を算出)

	2019年	2020年		2021年		2022年	
	4月	4月	2019年比較利用率(%)	4月	2019年比較利用率(%)	4月	2019年比較利用率(%)
開館日数(日)	27	7	26%	24	89%	25	93%
開館時間(時間)	279	56	20%	211	76%	260	93%
入館者数(人)	14,792	784	5%	8,722	59%	12,204	83%
一日平均(人/日)	548	—	—	363	66%	448	89%
一般貸出件数(件)	2,081	315	15%	1,449	70%	1,286	62%
一般貸出冊数(冊)	4,369	752	17%	3,144	72%	2,742	63%
送本貸出件数(件)	31	90	290%	51	165%	41	132%
送本貸出冊数(冊)	80	288	360%	138	173%	95	119%
研究個室使用者数(人)	333	29	9%	119	36%	136	41%

※ 2020年4月休館中の入館者数は教職員利用分含む
※ 2020/4/9～6/7臨時休館(教職員のみ利用)
※ 2020/4/22～9/23送本貸出利用対象者拡大
※ 2021/8/23～再度、送本貸出利用対象者拡大

2021年度

4月
新型コロナウイルス感染拡大防止のガイドラインに則して、感染防止策を講じたうえで、短縮開館を継続。
企画展示(図書館1階) 佛教大学教員著作紹介サイト・先生の書いた本」と、「人類と感染症」(新型コロナウイルス関連)を随時更新しながら展示。
対面ガイダンスに代わるものとして、佛教大学図書館ポータルサイト「BIRD」利用方法を、動画版およびPDF版によって案内。また図書館についてQ&A形式で学べるWEBサイトを紹介。
図書館報『常照』第68号を発行
10月
「新型コロナウイルス感染症拡大防止のための佛教大学活動基準」および、「2021年度秋学期10月11日以降の授業の方針」に伴い、紫野図書館の開館時間を通常へ。
2月
佛教大学教育後援会の援助金により「カーボンニュートラル―持続可能な社会を目指して―」に関連した冊子体図書112冊、電子ブック33冊を購入。
中央展示テーマ(2021年4月～2022年3月)
4～5月 京みぎ・ひだり(前期・後期)
6～7月 江戸時代の祇園祭(前期・後期)
8～9月 送り火・五山と消えた「い」
10～11月 紅葉狩り(前期・後期)
12～1月 雪景色・冬ごもり(前期・後期)
2～3月 和書あれこれ―写本・版本・古活字本―

2022年度

4月
新型コロナウイルス感染拡大防止のガイドラインに則して、感染防止策を講じたうえで図書館・図書室を開館。
企画展示(図書館1階) 「カーボンニュートラル―持続可能な社会を目指して―」に関連した図書を随時更新しながら展示。
事務組織改編により、「研究推進部」図書課へ移管。
入退館ゲートトリプレイス(紫野キャンパス図書館・二条キャンパス図書室)マイクログフィルムスキャナトリプレイス(紫野キャンパス図書館)社会福祉学部「認知症啓発のためのブックレビュー展」開催(図書館1階)
5月
9月
中央展示テーマ(2022年4月～9月)
4～5月 名所めぐり・あの花この花(前期・後期)
6～7月 祇園祭(前期・後期)
8～9月 ありし日の京(前期・後期)



中央展示(2022年6月)
「祇園祭(前期)」



入口展示(2022年8月)
「カーボンニュートラル―持続可能な社会を目指して―」

佛教大学附属図書館の沿革と「成徳常照館」の由来

佛教大学附属図書館は、佛教大学の前身佛教専門学校があった京都市左京区鹿ヶ谷の地から、現在の京都市北区紫野に移転した1934(昭和9)年11月23日に木造2階建の閲覧室と、鉄筋コンクリート3階建の書庫を竣工落成しました。この図書館建設にあたっては、佛教専門学校初代校長である土川善濃師(浄土宗大本山知恩寺68世住職)に深く帰依された篤志家上村常治郎氏のご遺族から多額の寄付をいただき、完成することができました。その後、1963(昭和38)年9月に開学50周年を記念して閲覧室、書庫などが増築され、1972(昭和47)年4月には、開学60周年記念事業として地上5階地下1階建で、研究室を配置した複合図書館棟が完成しました。現在の図書館は、開学80周年の記念事業として、同窓会、鷹陵同窓会などの卒業生、在学生ならび保護者、浄土宗寺院をはじめとした、本学有縁の方々からの多大な寄付によって、1995(平成7)年1月に着工し1997(平成9)年

4月に竣工したものです。地上5階地下2階建で100万冊を収蔵することができま

す。
佛教大学附属図書館の建物は、「佛教専門学校附属圖書館成徳常照館之記」にある「今コロナ冠スル所ノ成徳常照館ノ名ハ(中略)繙書ノ士専ラ徳器ノ成就ニ努メテ智光ヲ常照スル」から「成徳常照館」と名づけられ、書物をひもとく者が努力して、立派な人格者となり、智慧の光をいつも照らすようにという願いが込められています。この木額は佛教専門学校第7代校長江藤激英

師(浄土宗大本山善導寺61世住職)によって撰述されたもので、現在は図書館1階に掲げられています。また、同じく1階に設置されている浄土宗総本山知恩院にある八角形の経蔵「転輪蔵」(略して輪蔵)の縮小複製は、1998(平成10)年5月、図書館開館1周年を記念して、佛教大学同窓会、鷹陵同窓会、通信教育部学友会、教育振興会から寄付されました。輪蔵は、1回転させることによって、一切経を読誦したことに同じ功德を得られるといわれています。

後記

佛教大学附属図書館報『常照』第69号をお届けします。書物について語られる先生方の、熱意のこもった姿にはいつも圧倒されます。皆さまにも、さまざまに図書館を活用いただき、それぞれに、かけがえのない書物との出会いがありますように。

佛教大学附属図書館報『常照』第69号

発行日 令和4年10月23日
発行者 佛教大学附属図書館長 藤井 透
発行所 京都市北区紫野北花ノ坊町96
佛教大学附属図書館
制 作 株式会社栄美通信

